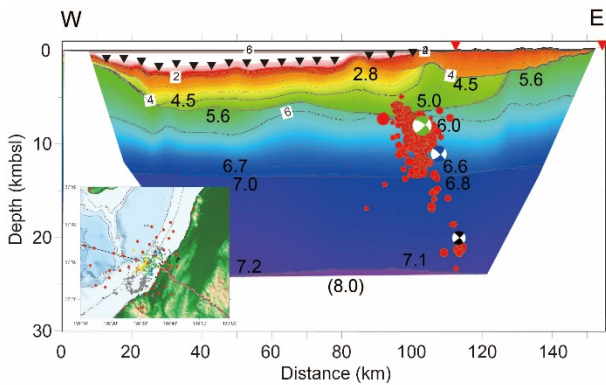


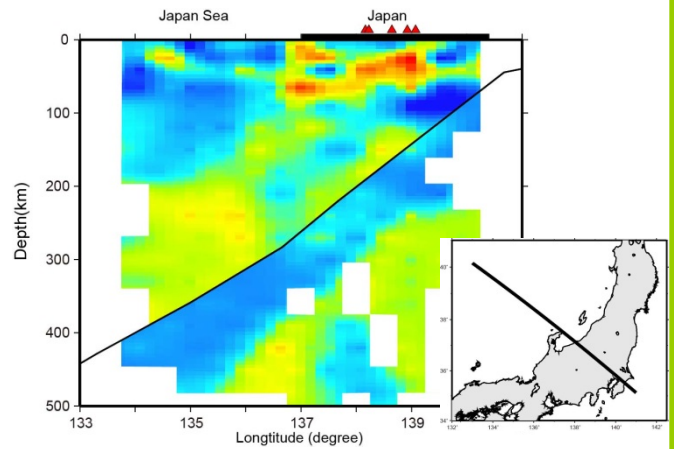
氏名	中東 和夫 NAKAHIGASHI, Kazuo ナカヒガシ カズオ
所属・役職	大学改革準備室 准教授 (海洋資源環境学部担当)
研究分野 (キーワード)	海域地震学 観測海洋底科学 固体地球物理

研究1： 海底地震計を用いた地球内部構造・地震活動の研究

専門は地震学で主として海域を対象とした地球内部構造の研究を行っています。地震データには地球内部構造を知るための重要な情報が含まれています。これまでの研究では自然地震だけではなく、人工震源なども用いた調査・研究を行って来ました。さまざまな地域の地球内部構造を明らかにし、現在や過去の地球ダイナミクスを理解する事は、地球内部でのエネルギー移動や水などの物質循環、プレート運動などテクトニクスの考察や将来地球はどのように変化していくのかを考える上で重要です。



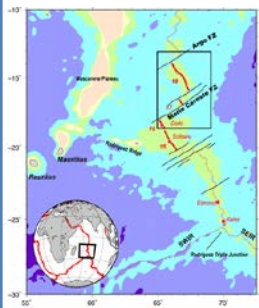
2007年中越沖地震震源域の地下構造と震源分布



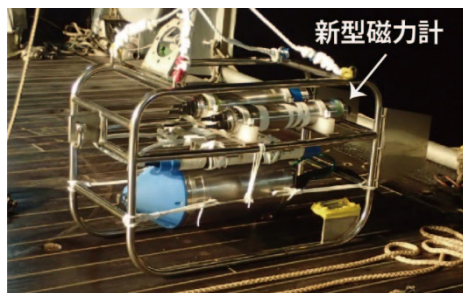
日本列島から日本海にかけてのマンテル構造

研究2： 新しい観測機器の開発・改良

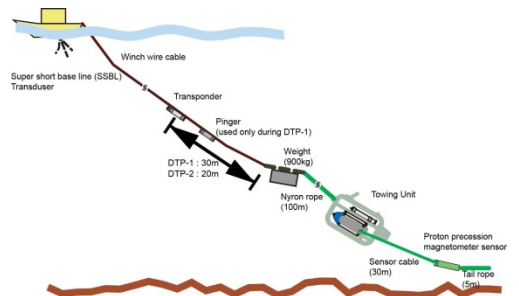
電源が無く電波も届かない、さらに海水による過酷な圧力にさらされる海底・海中での観測では市販されている陸上用の観測装置をそのまま用いることは出来ず、耐圧容器の中に観測機器・電池などを入れた観測装置を使用する必要があります。そのためには機器の小型・省電力化などを行うことが重要です。また、研究対象に合わせて観測方法の改良を行うことも大切です。そこで研究目的に応じ、新たな観測機器の開発・改良なども行っています。



中央インド洋海嶺



深海曳航式磁力計



調査方法

地球科学概論 I (分担)、地学実験(分担)、海底科学 I (分担)、海底科学実験(分担)を担当予定。

<p>学生の みなさんへ</p>	<p>海嶺では海洋プレートが生まれ、海溝から地球の内部へと沈み込んでいきます。この海洋プレートの移動に伴い海域では活発な地震・火山活動が見られます。これらの地球科学的現象のダイナミクスを理解することを目指し、海域での地球物理学的観測にもとづいた地球内部構造・地震活動の研究を他大学・研究機関と共同して行っています。また、観測機器の改良・開発も行っています。</p>
<p>企業・法人 のみなさん へ</p>	<p>本研究室では、卒業研究や論文をまとめていく過程で「実際の現場」を経験し、その経験をもとに「問題・課題への取り組み方・解決能力」が備わるように指導する予定です。海域での観測では周囲との協調性や状況判断力が重要です。本研究室の卒業生にはそれらを身につけて貰いたいと考えています。</p> <p>産学・地域連携推進機構の研究者総覧DBは下のとおりです。 http://olcr.kaiyodai.ac.jp/db/profile.php?yomi=NAKAHIGASHI,Kazu</p>